

二〇四一番

秋風の吹き漂はす 白雲は 織女の天つ
領巾かも

二〇四二番

しばしばも 相見ぬ君を 天の川 舟出はやせよ
夜のふけぬ間に

二〇四三番

秋風の清き夕に 天の川 舟漕ぎ渡る 月人を
とこ